

児童学科と人間栄養学科の学生が連携して行う栽培活動の価値

—食を多様な視点でみることを通して—

佐藤 雅子^{*1}，河合 優子^{*2}

要旨

保育者志望の児童学科 3 年生と栄養教諭志望の人間栄養学科 4 年生が他職種連携の授業を通して、幼児期における食教育の在り方を探る活動を行った。具体的な内容としては、立場の異なる人がそれぞれの学科の知見や食育活動における価値を出し合いながら、栽培される植物、栽培する子どもの立場にたって栽培活動の価値を考えるとともに、収穫したものを一緒に調理して食べる活動である。このことは、今後の教育の目指す方向性を踏まえて、教育・保育を進める実践者としての思考の深まりになったことが期待される。一方、それぞれの視点にたった学びの共有について課題が残った。また、他職種連携授業を実施する時期や時間が限られていたことが本実践の限界であった。

キーワード

接続期の食育 栽培 保育者 栄養教諭 他職種連携

1. 本研究の目的

2022 年 2 月 27 日に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における審議まとめが公表された。接続期の学びについては、5 歳児から小学校 1 年生の 2 年間（架け橋期）に注目した「幼保小の架け橋プログラム」の実施に向けた手引と参考資料が作成されるなど、幼保小の接続期の教育の質の確保が求められている。秋田¹⁾は、「幼児教育施設は小学校以降の教育を見据えて小学校以降の学習や生活の基盤の育成を行うとともに、小学校においては幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施することが重要」と、学びと発達の連続性を保障する環境の重要性を指摘している。

これまで幼児の食育においては、栽培活動の有効性が指摘されており²⁾、多々納・山田は、幼稚園における食育の方法の第 1 位に栽培活動があったことを報告している³⁾。また、保育者志望の学生が野菜の栽培活動を行う教育的効果を述べた報告もある⁴⁾。しかし、多々納・山田の調査³⁾では、幼児期の食育に栄養教諭が関わったという回答は見られず、栄養士が関わっている施設も少ないことが報告されていた。金田他⁵⁾は、食育の実施者が教諭であること、教諭の年代別で食育の実施状況に差があることを指摘していた。鈴木⁶⁾は、学校給食指導は学級担任が行う業務ということを教員養成系の大学で扱う必要性を述べている。これらのことから、架け橋期の教育に食育が重要であることが示唆されているものの、具体的な取組みは、担当の保育者や幼稚園教員が担当しており、栄養教諭や栄養士が関わることによる効果は十分に示されていないことが推察される。

以上のことから、幼児期の食育を考えた際に、保育者志望の学生と栄養教諭志望の学生が連携して栽培活動の価値を実感する活動には意味があると考えた。本実践では、植物の成長を子どもの立場、栽培される植物の立場、そして、保育者、栄養教諭の立場からどのように捉えるのか、という視点で実践をしたことを報告する。

2. 研究の方法

(1) 対象者と手続き

研究対象者は、児童学科 幼稚園教員免許・保育士資格課程履修の 3 年生 9 名（以下、児童学科の学生と記す）と、人間栄養学科 栄養教諭免許課程履修の 4 年生 8 名（以下、人間栄養学科の学生と記す）の計 17 名である。期間は 2024 年 9 月～11 月とした。研究対象者には、連携授業での授業記録を研究対象とすること、個人を特定しない方法で授業記録を回収すること、研究への参加は自由意思であり、同意の有無は成績には関係のないことを伝えた。研究への同意者は 88.2%であった。なお、本研究は聖徳大学ヒューマンスタディに関する倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号 R06U031）。

^{*1} 聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科准教授、^{*2} 聖徳大学教育学部児童学科教授

(2) 授業実践の方法

双方の学科で構成された4～5名を1つの班として、大根を栽培し、栽培した大根を調理して食すまでの活動を行った。全員共通で行った連携授業の内容をTable1に示す。栽培する野菜は大根とした。種まきは9月19日の授業時に行い、その後の栽培活動はグループ毎に計画をたてて取り組むように伝えた。栽培中の活動記録については、①子どもの立場、②大根の立場で記録させた。対象とする子どもは、それぞれの職種に該当する年齢層として、5歳児～小学校低学年をイメージさせた。

Table1 共通の時間における他職種連携授業の内容

回	日にち	内容
1	9月19日	他職種連携授業のねらいを知る、自己紹介、種まき
2	10月31日	保育者および栄養教諭の職務の紹介
3	11月5日	収穫、調理体験と会食

(3) 分析方法

内容分析技法を用いて、以下の手順により分析を行った。①レポートをテキスト化した。②意味内容の類似性に従って記述内容を分類し、カテゴリーに分けた後、意味内容が示せるよう命名した。なお、記録の内容には、複数のカテゴリーが含まれるものがあったため、研究者で検討を重ね、適すると判断されたカテゴリーに分類した。出現した語句と数の比較及び語句間の共起については、KHCoder Ver. 3⁷⁾を用いた。

3. 結果及び考察

観察記録数は、児童学科の学生は一人当たり平均3.71回、人間栄養学科の学生は一人当たり平均6.75回であった。一方、児童学科の学生の「子どもの立場」の観察記録における総抽出語数は719語、文の数は81文であり、人間栄養学科の学生の「子どもの立場」の観察記録における総抽出語数は、文の数は547語、文の数は61文であった。児童学科の学生は、観察回数が少ないものの、1回に記録する内容が多かったことが見てとれた。人間栄養学科の学生は、児童学科の学生と比較すると回数を多く観察していたことが伺えた。

(1) 子どもの立場からの観察記録

児童学科の学生の記述からは、子どもの心情に寄り添った感情の記述が多く見られた。栽培活動に不安な面はあるものの、「楽しい、嬉しい、美味しい、気持ちいい」等のポジティブな感情の記述が多く、栽培活動や調理による喜びや嬉しさなどの豊かな感情が育まれることが推察される。人間栄養学科の学生の記述からは、成長の様子を記録した記述が多かったことが読み取れた。また、他の班と比較した記述も複数見られた。栽培活動によって、これまで食品として扱ってきた野菜を「植物」として捉え、どのように育っていくのかを認識し、自然とかかわる姿や生命を尊重する姿につながるものが推察された (Fig.1)。

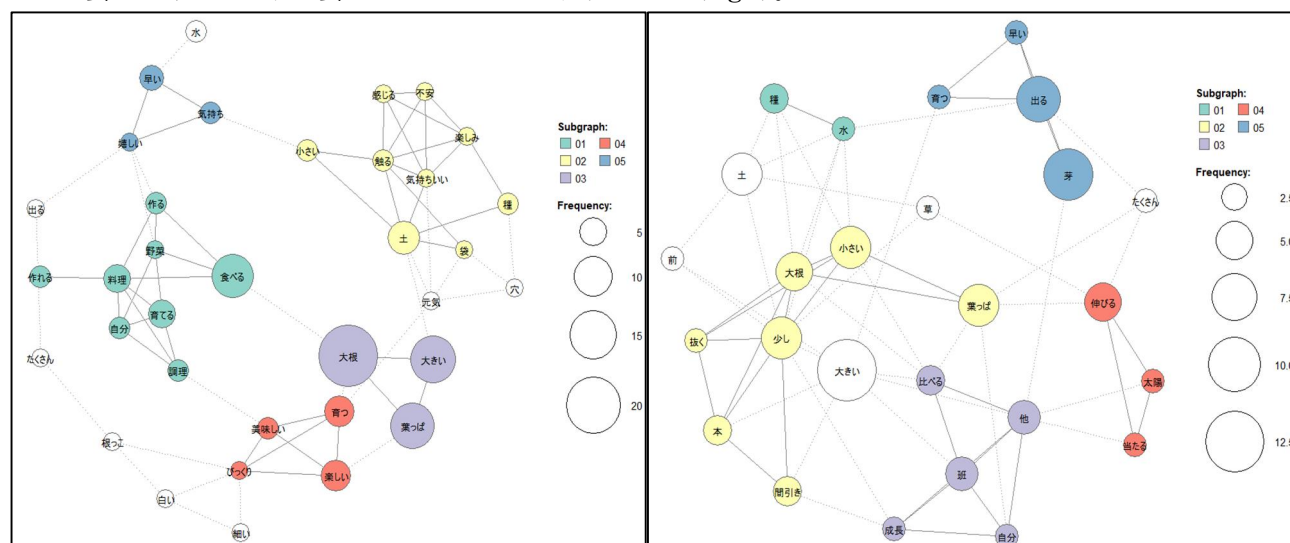


Fig.1 各学科で抽出された語句の共起ネットワーク (左: 児童学科の学生の記述, 右: 人間栄養学科の学生の記述)

1) 種まき

種まき時の学生の記述を Table2 に示す。児童学科の学生の記述には、わくわく感や今後の願いが込められた記述が多く見られた。栽培のスタートにあって、子どもが感じるであろう期待感や求められた自分の役割等を意識している文面であることが考えられた。また、種まきを行うにあたって、土に触れた感触を楽しむ記述も複数見られた。

人間栄養学科の学生の記述は、種や土の観察の記述が見られた。また、これから栽培をしていく意欲とともに育ってくれるか、不安になっている文言もみてとれた。

Table2 子どもの立場に立った記録（種まきの時）

	児童学科の学生の記述 n=7	人間栄養学科の学生の記述 n=8
土の感触	<ul style="list-style-type: none"> ・土に触るの、楽しいな！ ・土の感触が気持ちいい。 ・土を触った時、冷たくて気持ちいい。もっと触りたいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土が冷たくて気持ちいいな。 ・土がふわふわしている。虫がいる。
種の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・種が小さくてどこかに行ってしまうそう。 ・種が小さくてかわいい。 ・種が小さい。大きく育てほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごまみたいな小さい種を土に植えた。 ・すごい種が小さくてかわいい。 ・色は少し赤っぽくて硬い種だった。 ・種が赤かった。
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・袋から袋に土を移動するのは難しいなあ。 ・大根の種を蒔いた ・袋に穴をたくさん開けたよ。大根の種を植えたよ。大きくなあれ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土の中に入れて水をまいたけど、ちゃんと大根になるのかなあ。
成長への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・手のひらに種をいっぱいもらったよ。袋の中の土に指で穴を空けて、一つの穴に3つ種を入れたよ。土を優しくかぶせて「大きくなれ！」って願ったよ。元気に育ちますように！ ・大きく元気に育ってね。 ・大きく育って欲しいな。 ・大きくなってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よし！今から大根の種を植えるぞ！ちゃんと育つか？ ・今日は「種まき」をするみたいだ。いつもお味噌汁に入っている大根を育てることになったんだ！楽しみだなあ。土の準備や袋の穴開けとかすごく面白かった。これからは毎日水やりに来るんだ！
不安	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみ。 ・おいしい大根になるといいな。 ・どんな葉っぱなのかな。 ・水やり頑張るぞ。 ・種から本当に大根になるのか楽しみ。不安。 不思議な気持ち。 	

2) 成長過程

成長過程における学生の記述を Table3 に示す。児童学科の学生の記述からは、葉がたくさん出てきたことの成長を楽しんだり、間引きする際に子どもが考えることを想像したり、と栽培活動そのものを楽しむ子どもの気持ちの記述が見られた。また、せっかく育った葉を間引くことを通して、間引いた葉がかわいそうと思いつつも、間引く行為の楽しさなどの詳細の記述も見られた。

人間栄養学科の学生の記述からは、大根の成長の様子の観察とともに、間引きや日光の当たる場への移動など、育ちの変化に合わせた活動の様子が記されていた。また、子どもの立場に立って記述することで、自分が関わることで植物が育っていく喜びや期待を感じていることが見てとれた。

児童学科と人間栄養学科の記述を比較すると、児童学科の学生は、栽培活動そのものを楽しみ、自分の行動による大根の成長を楽しんでいる様子が窺える。一方、人間栄養学科の学生は、大根の成長を期待して一生懸命世話をしている様子が窺える。その結果、少しずつ成長はしたものの期待したような成果につながらず、心配や不安、そして残念な気持ちが強いことが、記述から読み取れた。

Table3 子どもの立場に立った記録（水やり、間引き）

児童学科の学生の記述	n=7	人間栄養学科の学生の記述	n=8
芽 の 成 長 ・ 観 察	<ul style="list-style-type: none">・大根を大きくするために、大根を抜いた。・葉っぱがザラザラしている。・葉っぱは大きいけど、大根はまだない。・お水をいっぱいあげよう。・水がおいしいかな。大きく育っている。・水やりをしたよ。たくさん飲んで大きくなってね。・大根の葉っぱはもっと大きくなった。・大根の白い所も細いけど、大根が出来ていてうれしい。・もっと大きくなってほしい。・たくさんの枝があるな。大根はどうなっているかな。・間引きをしたよ。大きいのを残してたくさん抜いた。根っここのところをしっかり押さえて抜くのが大事！	<ul style="list-style-type: none">・学校に来たら、芽が出ていた。水やりを忘れないようにする!!・芽が出た！・土から芽が出て葉っぱが大きくなった！・太陽の光があまり当たってなくて、他の芽より伸びていなかったの、太陽が当たるところに移動した。・少し草はえた。緑色が見えた。・たくさん芽が出ている。かわいいな。・どれくらい間引けばいいんだろう。どの芽が元気かな。・他の班に比べて、芽の成長がゆっくり。・ピーツ（ラディッシュ）は全然大きくならない。残念。・ちょっとだけ背が伸びた。・一杯出たけど少しきゅうくつそう。・どんどん伸びてきた。土にいっぱい草がある。・今日は間引きをするぞ！一つの穴に種をいくつもまいたから、大きくておいしい大根にならないみたいなんだ。だから、今、強くて太い大根を選んで、それ以外の芽を取ってしまうんだって。取っちゃうなんてかわいそうだけど、おいしい大根のためには、必要なんだっていうから、頑張ったよ。・抜くの、かわいそうだな。でも、大きくするには大切だね。・仲間が少し減ったけど、前より大きくなった。・前よりも大きくなった。・土の中はどうなっているんだろう。・水やりに行ったよ。今日、大根を見たら、前のやわらかい葉っぱがどんどん大きく緑色になってたんだ。成長しているんだね。・前よりも大きくなった大きくなった。葉が、少し虫に食べられていた。・軽く間引きをした。土寄せも行った。これでもっと大きくなってくれるかも！！・まだまだ大きくなるかなあ。この間よりも葉っぱが伸びているよ。・こんなに大きくなったのに、間引くの、もったいないな。・売っているものと比べてまだ葉っぱが小さいなあ。・袋からあふれるくらい大きくなった。葉っぱの大きさが手の大きさよりも大きくなった。・間引きをしてから少しずつ成長が感じられた！・自分の顔よりも長い葉っぱー。	
	<ul style="list-style-type: none">・早く大きくなってほしい。・たくさん葉っぱが出てきた！土が見えないくらいたくさん！大きくなるといいなあ♡・大きくて美味しい大根を作るには、育っていない葉っぱを取るんだって。間引きっていうんだって！・早く大きくなってほしい気持ち。葉っぱが少し出てきて嬉しい。もっと大きくなって欲しい。水やりが楽しい。・どの葉っぱを取ったらいいか不安。葉っぱを抜くのが楽しい。かわいそうと感じる。抜いた葉っぱを何かに使えないか考える。大きな大根になってほしい。	<ul style="list-style-type: none">・まだ芽が出ないなあ。早く出ると良いなあ。・土を足したよ。水をあげてるとだんだん根っこが見えてくるようになったから、見えなくなるまで新しい土をかけたよ。もっとずっと大きくなあれ！・水やり大変だな。でも、大きくなってほしいから頑張るぞ・自分たちの班は他の班より成長しないなあ。どうしてだろう。・もっともっと大きくなれ～！・間引きが少なかったの、大きい2本にした。2本だけになって少し不安。・土の中の大根はどうなっているのだろう？不安だな。・葉っぱが大きくなった。でも、他の班に比べて小さいなあ…・あと2ヶ月くらいかかりそう。・前よりは大きくなってきた。・そろそろ大根になってほしいなあ。・2回目の間引きをしたよ！1回目よりみんな大きく元気に育っていたから、抜いちゃうのがもったいなかった…。家に持って帰ったら、お母さんがふりかけにしてくれたよ。そのままは好きじゃなかったけど、ふりかけはおいしかった！大根は育ったかな？食べられるといいな！	

3) 収穫, 調理

収穫, 調理に関する学生の記述を Table4 に示す。栽培期間が十分に確保できなかったため、調理するに値するような大根を収穫することはできなかった。調理は購入した大根で代用した。そのため、収穫時の残念な気持ちは双方の学科の記述からみることができた。それでも、児童学科の学生の記述からは、「大根がこんないろいろな料理になるんだ」という発見の喜びや面白さ、「みんなで食べると楽しい」という協同の楽しみなどのポジティブな感情の記述が複数見られた。また、次の栽培への意欲を記述した学生もいた。栽培活動の満足感や達成感が、次の活動への動機づけとなることが推察された。

人間栄養学科の学生の記録をみると、調理に関して記述した学生は 8 名中 2 名であった。メニューを考えたり調理を主導で行っていたりする活動とは反する記述となった。この要因として、一つは教員の働きかけの影響があったと考える。「子どもの立場で」という指示を、栽培活動に特化したものと捉えてしまった可能性である。もう一つは、調理を子どもの立場で考えにくかったという可能性である。後述する児童学科の学生の学びで見られるように、調理は人間栄養学科の学生がリードして行っていた。学科の特性である食の専門性を意識して料理や調理法を考えたことで、子どもの立場にたって考えるという余裕がなかったかもしれない。子どもの立場を意識した調理、会食まで考えられるような設定をすることが課題であった。

Table4 子どもの立場に立った記録 (収穫, 調理)

	児童学科の学生の記述 n=7	人間栄養学科の学生の記述 n=8
収 穫	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ大根にはなってなかった！ ・細っこい大根だなあ。 ・普段食べている大根はこんな育ち方をしているんだね。 ・全然育っていない。なんで？ ・白い根っこだけだった。 ・葉っぱはしっかりしているね。 ・育った葉っぱを持って大根を抜いてみたよ。ちょっと小さかった。まだ早かったかな？ ・葉っぱが大きくなって嬉しい。大根がまだ小さかったため、残念な気持ち。早く食べたい。 ・大根が見られて嬉しい。早く食べたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ育ってないな。どうしたらもっと大きくなるんだろう。 ・試しに 1 本抜いてみた。葉の大きさの割に大根がすごく細かった。もっと大きくなっていると思っていたので、残念。 ・大根、少し抜いてみたけど、まだ根っこが小さかった。 ・上の方（葉）の方は大きかったけれど、大根は小さかったなあ。上手に抜けるかな？抜いてみたら、細いし、白い部分も小さかった！
調 理 の 相 談	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな料理があるんだろう？ ・いつも食べている料理は… ・何が作れるかな？ ・何が必要かな？ ・大根料理って何があるかな。 ・いろんなものが作れるね。 ・これ食べたい、作ってみたい。 ・葉っぱも食べられるんだ。 	
調 理	<ul style="list-style-type: none"> ・どうやって食べようかな。 ・大根はこうやって食べるんだ。 ・みんなで協力して作りたい。自分たちで作った大根を食べるのが楽しみ。早く食べたい。 ・大根を抜いた葉っぱはとても立派に育っていたから、ドキドキで抜いたら、思っていたよりも細くてびっくりした!! でも、美味しかった～!! ・みんなで食べると楽しい！ ・自分で育てた大根だから食べてみよう。 ・みんなで食べると美味しいね！ ・調理、楽しかった！ ・大根がいろんな料理になって面白い。おいしい。大根を育ててよかった。今度は違う野菜も育てたい。 ・他の野菜も育ててみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さかったなあ。葉っぱも食べられるんだ。大根だけでも、いろいろなメニューがあるんだな。 ・今日は育てた大根を使って料理をするよ。チジミと青のりサラダを作るんだあ。おいしくできるかな？大根は大きくなっていないとお店の大根で作ったよ。たくさん混ぜて、一生懸命やったよ。おいしくできてよかった。またやりたいな。

(2) 大根の立場からの観察記録

大根の立場にたった観察記録を Table5 に示す。大根の成長に関しては、いずれの学科でも、世話をしてもらった喜び（例：水がおいしい）、成長の喜びや嬉しさ、間引かれた仲間の寂しさ、もっと大きくなるぞ、という「大根の成長への意欲」等が見られた。人間栄養学科の学生の「成長」に関する記述が多かったのは、回数を重ねて観察し、栽培活動に積極的に関わったからであると推察した。大根の立場で考えることで、生命のすばらしさやたくましさも感じたことも推察された。

児童学科の学生の記述には、調理に関するものが多く見られた。内容を見てみると、「育ててくれてありがとう」という表現があった。栽培活動を大根の立場で考えることで生命の尊さに気付いて大切にすること、ということの表現なのではないかと推察した。また、双方の学科で、「食べてくれるかな」と心配する記述や「食べてくれて嬉しい」「おいしく食べてくれてありがとう」という表現が見られた。育てられた大根の視点から物事をみることによって、生命をもつ食べ物への共感を醸成できることが推察される。

以上のように、育つ植物の視点にたった観察が、植物の成長のみでなく、成長過程の多面的な捉えや、食育を行う上での視野の広がりにつながっていることがうかがえる。食べられる植物の視点にたつて気持ちを考えることは、想像力の向上や育った大根への感謝の気持ちを育むことができると考える。口にする食べ物が、時間の経過のみで成長するのではなく、そこに努力や工夫、植物そのものの生命がある、ということを感じた上での表現ではないか、と推察した。

Table5 大根の立場に立った記録

	児童学科の学生の記述 n=7	人間栄養学科の学生の記述 n=8
種まき	<ul style="list-style-type: none"> ・袋から出されてコロコロ転がった。指でつままれ、ふかふかした土の中に入れられた。 ・優しく土をかけてほしい。苦しい。水が冷たい。水がおいしい。 ・土が冷たい、空気が冷たい。 ・袋から出された。ここどこー？だれかにつままれたよ。これからどこに行くのー？真っ暗になったよ…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い！土の中に入れられた！外より少し暖かいかなあ。 ・明るい所から暗いところにきて怖い。 ・これから大きくなるぞー！暗くて暖かい。 ・ようやく暗いところから出れた！外の空気おいしい！再考だ！水が!!!冷たいよう。
成長	<ul style="list-style-type: none"> ・水をかけてもらって嬉しい。水がおいしい早く大きくなりたい。葉っぱが出てきて、外の景色が見られて嬉しい。 ・水と日光を栄養にやっと明るい世界に出てこられた。もっと頑張るぞ～。 ・ご飯がおいしい。水が冷たい。 ・うわー。水をかけられたよ。冷たいよ。寒いよー。でも喉が渇いていたからちょうどいいや!! ・大きく育っているもの以外は抜かれてしまった…。でもその分栄養がいくといいな～。大きく育つよ～！ ・(抜かれた葉っぱ) 悲しい。まだ土にいたかった。(残った葉っぱ) 抜かれなくてほっとしている。仲間がいなくなって寂しい。いなくなった葉っぱのために大きくなるぞと意気込んでいる。 ・土の中、あったかい。仲間が減ってる。悲しい。 ・仲間が一人いなくなっちゃったよ…。不安だな。大丈夫かな。 ・一緒に育った仲間がいなくなってさみしいけど、太陽がいっぱい当たって広がった。 ・人間がきて、すごい見てくる。 ・ぐんぐん育つぞ～～～～～ ・どんな調理されるんだろう？ドキドキ ・うわー、抜かれた。土がなくて寒い。 ・もっと広がった。 ・土をよせてもらってぽかぽか。 ・嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真っ暗だな。早く日の光を浴びられるように大きくなろう。 ・そろそろのびたいなあ。外の景色が見たい！ ・土から出られて、明るかった。太陽の光が当たって大きくなれそう！ ・やっと土の中から出たぞ！明るい！これからどんどん大きくなるぞ！ ・太陽がもっと当たるところになって、嬉しい！ ・少し外に出てくることができて嬉しいな。 ・仲間がたくさんいて嬉しいな。でもちょっと狭いな。 ・土の中は息苦しかったけど、暖かかったな。そとに出ると、みんなの顔や葉が見えて楽しい！でも風は冷たいし強くて飛ばされそうだよ。水も冷たいし、明るくなったり暗くなったりするんだ！あ！待って！それ私の友だち！どうして連れて行っちゃうの！ ・寂しくなった。もっと大きくなれる予感 ・僕たちの仲間が減っていく！土の中が広がった。これからもっと大きくなるぞ！ ・最近、根が外に出ちゃって大きくなれない。もっと土が欲しいなあ。 ・土の中は真っ暗だ！仲間は減ったけど、土の中が広がったから伸び伸び育つことができるぞ！ ・暑くなくて涼しいな。身長伸びた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱが出てきたよ。 ・涼しい気候と、日当たり、風通しのよい環境がいいな。ここは少し日当たりが悪いかも。 ・良く育つ気温は 17～20℃だからまだまだ暑くて大きくなれないや。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なんだか最近では明るい時も冷たい気がするんだ。おいしいお水をくれる子が寒い～って言ってたよ。私はこっちの方が好きだなあ。 ・外に出たら仲間がいっぱいいた！いっぱい伸びようね！ ・もっと強くて大きな大根になるぞ！ ・もっともっと大きくなるぞ！（3） ・なんか虫に食べられちゃったよ。 ・みんなで背比べをしているんだ。今は向いにいる子が一番で、私は2番目！ふかふかの土が増えたから、もっと頑張れそう！お水を飲んで大きくなるぞー！ ・たくさん伸びてきて少しせまい～。 ・ゆっくり寝られた～！前よりも成長しやすいな。 ・前よりも広がった。土が増えて、背伸びしやすくなった！ ・もっと強くて大きな大根になるぞ！立派な大根になるぞ！ ・う～ん。成長したいのに、なかなかのびないよお。 ・他の仲間のためにも、もっともっと大きくなるぞ。 ・仲間が自分以外に一人になってさみしいけど、もっと広くなった！どんどん大きくなるぞ！！ ・また友達がいなくなっちゃったんだ…。大きさ比べしていたみんながいなくなっちゃったよ。一番目の子と私だけは残ったんだ。みんな、どこに行ったんだろう？元気であったかくて楽しく過ごせたらいいな。私もいつかはここからバイバイするのかな。どんな世界が待っているのだろう。 ・う～ん。まだ外に出たくないなあ。 ・もうちょっと頑張って大きくなりたいな。
収 穫 ・ 調 理	<ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりの景色だ。前より空気が冷たくなってる。 ・やっと外に出られたよ…！これから何されるんだろう…。 ・ちょっと怖いな。 ・収穫はもう少し待って欲しいな。 ・もっと大きくなりたかったな～。 ・やばい！まだ大きくなってないよ～泣 ・根っこは大きくならなかったけど、葉っぱは立派に育ったよ。 ・また抜かれた！外寒くなってきた～。まだまだ成長するからもう少し待っててね！ ・まだ大きい大根ではなかったため、まだ抜かないでほしい。食べてもらえるかドキドキしている。 ・大きくなってなくても食べてもらえるかな？？ ・早く食べて欲しい。いろんな料理に変身できるのが楽しみ。切られて痛い。火が熱い。 ・おいしく食べてもらって嬉しい。残さず食べてほしい。育ててくれてありがとう。 ・ふりかけや色どりとして使ってもらえた。 ・美味しく食べてくれてありがとう(*^o^*) ・おいしく食べてもらって嬉しい。 ・みんなに調理されて嬉しいな♪ 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い！まだ靴下はけてないよお。まだ土の中にいたい！ ・急に目の前が明るくなった。まだ大きくなりきれていないけど、食べてくれるかな。 ・寒さが足りないな。最近、愛情が足りない気がする。 ・ぼくのことを全部食べてくれて嬉しいな。 ・まだまだ頑張れるぞ！もっともっと大きくなるぞ！まだ抜かないでほしかった。 ・私もついに新しい場所に行けるみたい！ふりかけになっておいしく大変身するぞ！みんな、キラキラ(*^o^*)で楽しく料理してたから、私も楽しくなっちゃった！おいしいって言ってもらえてうれしいな。ありがとう。

(3) 他職種連携の学び

学科を超えた栽培活動と調理は、それぞれの学科の特性に気付くことができる活動となった。栄養教諭は学校において食育を行う中心となる職種であるが、学生の時に栽培活動を行う機会は殆どない。本実践は、栽培時期

に児童学科が海外研修で不在であったこともあり、人間栄養学科の学生が、栽培活動に熱心に取り組んでいた。そして、成長過程を観察し、植物の成長が班ごとに異なることやうまく育たないことも子どもの学びになることを学んでいた。また、育てた野菜が口に入るまでの多くの過程に気付くことができていた。さらに、育てた野菜を調理して食べる過程では、健康という視点から食べる方法や調理法などにも留意しており、この視点は児童学科の学生からは出なかった視点であった。このように、人間栄養学科の学生にとって、植物の成長過程に携わることで、子どもたちが栽培活動を行って得られる生命の尊さや自然に対する畏敬の念をもてることの価値に気付けたのではないかと推察する。

児童学科の学生では、栽培活動の意義として、大根の育て方や子どもたちに野菜を身近に感じてもらう方法に焦点をあてた感想が見られた。栽培中の記録では、栽培活動を楽しむ様子や育つための環境などにも着目しており、活動を行うにあたって留意点も踏まえて感じていたことが推察された。また、調理過程においては、児童学科の学生は、子どもができる作業や安全性、楽しさを重視していた。記録からは、「みんな」等、他との関わり（協働）の記述は児童学科の学生の記述のみに見られた語句であった。栽培活動や調理が、誰かと一緒に何かをする喜びを感じられる活動であることを認識できたことが推察された。このように、それぞれの立場にたって食育を考えること、また、子どもの立場や育つ植物の立場など、多様な立場にたって考えることは、視野を広げることにも役立っていると考えた。

上田他⁸⁾は、教員志望学生の食育に対する意識を調査している。これによると、自身が教員になったときに食育の授業を行おうと思っている学生が多く、内容として給食指導が最も多く、次に栽培活動であったことが報告されていた。一方、教員志望学生の栄養教諭の職務内容の理解は3割ほどであり、献立作成や栄養管理、衛生管理等の給食管理業務と捉えている学生が多いと指摘していた。また、食育を行わない理由として、指導内容や方法がわからないと回答した学生が多いことが挙げられていた。それぞれの学科の特性を活かした連携を行うことで、自分達にはない思考や視点に気づき、それぞれの目標を意識した活動を行うことができる⁹⁾。これらのことから、学生として保育・教育に進もうとする学生と栄養教諭を目指す学生が連携して栽培活動を行ったことはそれぞれの立場の理解及び連携の在り方を考える上で有効であったと考える。

一方、本実践では、互いの考えを十分に紹介しあうことができなかった。「子どもの立場にたった記録」「大根の立場にたった記録」を紹介しあうことで、さらに発見や気づきがあったのではないかと考える。本実践が限られた時間の中で行わざるを得なかった。このことも本実践の限界であった。

4. 本実践の成果と課題

「幼保小の架け橋プログラム」では、「子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働すること」が求められている¹⁰⁾。そして、その過程で相互理解を図り、子どもの発達や学びをつなぐとともに、連携を通してそれぞれの実践が充実することが重要であるとされている。本実践において、児童学科と人間栄養学科の学生は、それぞれの知見や食育活動における価値を出し合いながら協働することやその楽しさ、新たな視点を得るなど多職種連携のよさを実感したことが推察される。この体験は、今後の教育の目指す方向性を踏まえて教育・保育を進める実践者となるきっかけになったことが期待される。

一方、課題として、互いの学科の捉えの共有や他職種連携の重要性の価値付けが挙げられる。時数や時期の制約がある中での活動の在り方や認識の共有の仕方について、さらなる効果的な連携の在り方を検討することが求められる。

引用文献

- 1) 秋田喜代美 (2023) 今後の教育課程の在り方について：発達の視座から。今後の教育課程，学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会第6回資料。 <https://www.mext.go.jp/content/20230713-kyoiku01-000030920-03.pdf> (2024年9月24日アクセス)
- 2) 富永美香，地下まゆみ，井上美智子 (2021) 環境教育の観点から見た保育における栽培活動と食育の連携に関する研究 (Ⅱ)。大阪大谷大学教育学部幼児教育実践研究センター紀要。第11号，45-54。

- 3) 多々納道子, 山田千尋 (2012) 幼稚園における食育の実態と課題. 島根大学教育学部紀要 (教育科学). 第 46 巻, 15-27.
 - 4) 位田かつ代 (2017) 保育内容「環境」における野菜栽培活動の教育的効果. 岐阜女子大学紀要. 第 47 号, 55-65.
 - 5) 金田直子, 子安愛, 春木敏 (2016) 幼稚園教諭の年代別にみた食生活実態と食育実施の関連. 栄養学雑誌. 第 74 巻 3 号, 69-79.
 - 6) 鈴木洋子 (2015) 教員養成課程における学校給食に関する指導の必要性—教員志望学生及び小学校教員の給食指導に対する意識からの検討—. 奈良教育大学紀要. 第 64 巻第 1 号(人文・社会), 155-159.
 - 7) 樋口耕一 (2020) 社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して. 第 2 版. ナカニシヤ出版.
 - 8) 上田由喜子, 小橋麻衣, 山下治香, 田中都子, 細田耕平 (2014) 教員志望学生の食育に対する意識日本食育学会誌. 第 8 巻第 3 号, 181-189.
 - 9) 平本福子, 境愛一郎, 齋藤彰子, 佐藤佳子, 鶴川茉美, 足立智昭 (2019) 子ども園における自然環境を活かした食体験活動～栄養士と保育教諭の連携から～. 宮城学院女子大学発達科学研究, 89-100.
 - 10) 文部科学省 (2023) 学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～.
- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00003.html (2024 年 12 月 19 日アクセス)